

令和5年度 第3回我孫子市平和事業推進市民会議

1. 日 時 令和5年9月25日（月）午後6時30分～午後8時00分
2. 場 所 我孫子南近隣センター8階・第2会議室
3. 出席者 （委員） 桑原会長、高須副会長、赤羽根委員、北嶋委員、見城委員、早乙女委員、
根本委員、的山委員、矢作委員、山田委員、山元委員
（事務局） 企画政策課：高見澤課長、仲田係長、稲垣主任、葛生主任主事
4. 傍聴者 0名
5. 議事
 - 1 今年度事業の進捗について（報告）
 - （1）中学生広島派遣事業
事務局より、派遣先が長崎から広島に変更になった経緯や、派遣先での様子について資料に沿って報告した。
 - （2）平和祈念式典
事務局より当日の概要について報告した。
来年度の式典の実施時間については、組み合わせ事業の内容等によって決定されることを説明した。
 - （3）灯ろうの展示
事務局より、今年度も手賀沼とうろう流しが実施できなかったため、作製した灯ろうを生涯学習センターアピスタの1階ストリートに展示したことについて報告した。
 - （4）手賀沼とうろう流し・組み合わせ事業
事務局より、手賀沼とうろう流しの事業を始めた経緯と今年度の中止、次年度以降の事業検討と代替案について説明した。
手賀沼とうろう流しの手賀沼親水広場じゃぶじゃぶ池でのテストに関する詳細については、会長と事務局で管理者と打ち合わせを進めることとなった。
手賀沼とうろう流し以外の代替案については、各委員で検討していただき、今年度中にある程度の方針性を決めていくこととした。

—委員からの意見—

●実施検討について

・（手賀沼で）ボートなしで実施することはできないのか。

→灯ろうの回収面から、難しいと考えている。

・ロープを張るなどして、灯ろうを管理できるようにすれば可能ではないか。

→ロープを張ることが難しい。仮にできたとしても、ロープを超えてしまった際の対応も検討する必要があるため、ボートが必要になる可能性が高い。

・ボートを調達することはできないのか。

→ボート屋次第である。ボート屋以外から調達した場合、管理者である千葉県などの許可をいただくことができるのかがわからないことと、ボートに乗る人の保険料等も確保する必要があるため、経費や手間がよりかかる可能性がある。

・平和の記念碑の前でやることに意義があるのではないか。灯ろう流しが独自の事業であれば問題ないと思うが、平和祈念式典との組み合わせ事業となるのであれば、実施方法は考える必要があると思う。

・灯ろう流しは、灯ろうを流すことが目的ではなく、一般参加者も含め多くの方が平和について考えるきっかけになる機会を作ることが目的である。多くの参加者が集まるかどうかもある必要がある。

●代替案について

・じゃぶじゃぶ池に水を張る場合、費用はどうなるのか。

→8月に開催する場合は、水が張ってあるので、問題ない。テストの際に関しては、管理者と協議をする。

・じゃぶじゃぶ池で風情は出るのか

→今回のテストで確認する。結果、良くないと判断されれば、来年度の代替案からは外すこととなる。

2 平和の集いについて

(1) 実施概要

事務局より、資料に沿って説明した。

また、平和の集い当日の参加についても確認した。

(2) 広報・チラシ

広報への掲載スケジュールとチラシの配布予定について、事務局より説明した。

(3) 役割分担

- ・司会 2名→赤羽根委員、松丸委員（体調不良時等の代役は高須副会長）
- ・照明室担当→早乙女委員、根本委員
- ・撮影係→山元委員
- ・放映用動画作成→早乙女委員、根本委員

そのほかの役割やスケジュール等当日の詳細は次回会議で報告、決定することとした。

(4) 「平和の集い」展

事務局より、資料に沿って概要と予定を説明した。

また、設営協力を依頼した。

—展示内容についての委員からの意見—

- ・けやきプラザギャラリー1での展示で、市民会議のことに触れていただきたい。
- ・平和事業が特集されている広報の紙面を拡大して掲示していただきたい。

3 その他

(1) リレー講座

事務局より、資料に沿ってこれまでの実施報告と今後の実施予定、講師デビューに向けた準備について説明した。

また、8月23日に開催した勉強会についての報告も併せて行った。

—参加した委員からの感想、意見—

- ・OBOG会のような楽しい場も必要だと思うけれど、一方で今回のように学びをメインにした会があることで、全体の雰囲気引き締まるなと感じた。
- ・反省点としては、場所の広さなどの関係で、話す人が前に座るしかなかった。それだと、普段から参加している人が前になってしまうから、改善した方がよい。特に今年の派遣中学生で後ろの席になってしまった子がいたので、そういった子たちは前に席を準備してあげるべきだと思った。

(2) 平和ブログ

事務局より、現状の投稿状況と今後の投稿予定を説明した。

また、今後の投稿についての原稿作成に関する協力を全委員に向けて依頼した。

投稿したい内容がある場合は、事務局に報告していただくよう、併せて依頼した。

(3) 次回会議日程調整

10月最終週から11月2週目にかけての開催を想定している。

全員出席できる日程が望ましいが、会長と副会長の都合を優先しつつ、今期から委員になっていただいている方々の予定を中心に決定させていただく。

(4) 事務局からの報告

中央学院大学の平和学での山委員と山田委員が登壇することを報告した。

見学を希望される方は、事務局に連絡していただくようお願いした。

(5) 委員より報告

(千羽鶴の展示について)

千羽鶴の本数が減ってきている。

社会福祉課が新型コロナウイルス感染症蔓延以降回収していないし、復活する気配がないように感じている。

古いものを使いまわしている状況なので、社会福祉課に事業を再開するよう伝えてほしい。

(市民のチカラまつりに関する報告)

焼き場に立つ少年の写真についての討論会のようなものを9月23日の市民のチカラまつりで実施した。

その際に、以前市民会議で委員を務めていた方が来てくれ、自分の体験談を話された。

派遣中学生に話していただく場があると良いなと思った。

(展示作業での一コマ)

折り鶴の展示作業中、平和の記念碑を作った方の娘さんが声をかけてくれて嬉しかった。

(昨年の平和学に関する感想)

リレー講座で6年生に向けて実施しているのと、大学生に話をするのは、受け取られ方の感触が全然違う。

6年生は、授業を受けてどう平和についての気持ちが育つのがわからない。

もちろん、平和の種を綺麗な心のうちにあげるといふことの素晴らしさもある。

大学生は、すぐに平和について考えてくれる。

ある程度成人した若い人に話すことも良いことだと思った。

それぞれ良いところがあると思うので、大学生がこういう話を聞いたときの反応を、参加して見ていただけると良いと思った。

(平和学講義に向けて)

私は被爆二世で、直接被爆していないので、何を伝えたらいいのか、頭を悩ませている。母から聞いたことなどを思い出しながら原稿の準備を進めていたが、聞いていたことと違うことがあることがわかった。いろんな方に改めて当時のことを聞くきっかけになったので、感謝している。

(昨年の平和学に関する感想)

去年の学生たちの反応はすごく現実味があった。

彼らは防衛費のことや今起こっている戦争のこととか、自分たちが置かれている立場で物事を考えているのだというのをすごく感じた。

私が学生のころは、ベトナム戦争が起こっていたりしたが、世の中が反戦を謳い、日本は平和で世界もどんどん平和になっていく中で生きてきた。

去年の大学生と教授の話を聞いていて、そうではなく、彼らは現実をきちっと見ていて、日本がどうあるべきか、近隣諸国の今の状況を真面目に考えていた。

そして、そういった質問に対して、教授がしっかりと答えられていた。

リレー講座と違った若い今の人たちの話を、我々が聞くことはすごく大事だなと思った。みんなが平和になれば良い、戦争はしてはいけないと思っているのではなく、日本を守らなきゃいけないとか、そのために防衛費も拡大しなきゃいけないとか、そこまで踏み込んだ意見があった。

私にとってもすごく学びになったので、ああいう反応を聞くことがすごく大事かなって思わされた。本当に去年行けてよかったと思うので、委員の皆様も時間があつたらぜひ行ってほしい。

簡単な街頭インタビューとは違い、きちんとそれぞれ自分の平和感というか、戦争感というか持っていることに感動させてもらった。

(昨年参加した平和学の公演聴講の感想について報告)

被爆された方の話を聞く機会が今までなかったので、実際に話を聞いて、平和な状態とは何なのか。これから自分たちがどうしていけばいいのかを考えさせられた。改めて貴重な話を聞くことができて良かったと思った。

以上